

乳がん検査の選び方

● 35歳未満の方には超音波検査のみを推奨しています。

35歳未満の女性は乳腺が発達しています。マンモグラフィ検査では乳がんを見つけにくい状態である一方、良性の腫瘍が見つかりやすい傾向にあります。また、若い世代の方は40代以降の方と比較すると、乳がんの罹患率が低い世代です。マンモグラフィ検査による擬陽性、過剰診断が多くなる他、放射線誘発乳がんの可能性があり得ることから、35歳未満の方には乳腺超音波検査による乳がん検診をお勧めいたします。

● 35歳以上の方にはマンモグラフィと超音波検査の併用を推奨しています。

マンモグラフィと超音波検査の併用を推奨しておりますが、どちらか一方をご選択ということであれば、乳がん死亡率減少効果が証明されており、有効性が確立されているマンモグラフィ検査をお勧めいたします。
授乳中の方は乳腺超音波検査を推奨しています。

※以下の場合にはマンモグラフィ検査が実施できませんので、超音波検査をご選択ください。

- 妊娠中の方、妊娠の可能性のある方、授乳中の方
- ペースメーカー、CVポート等をご使用の方
- 豊胸手術を行っている方

超音波検査

検査方法

★乳房にジェルをつけ、プローブという器具をあてて、胸全体に滑らせていく検査です。

長所

- ・病変の性質がわかる
- ・痛みも被曝もない
- ・乳腺が発達している若年者でも病変を見つけ出すことができる
- ・触診ではわかりづらい数ミリの小さなしこり・腫瘤を検出することができる

短所

- ・早期の乳がんのサイン(石灰化)を見つけるのは不得意

マンモグラフィ

検査方法

★乳房を挟み圧迫しながら撮影します。

長所

- ・ごく早期の乳がんのサイン(石灰化)がわかる
- ・乳がん死亡率減少効果が証明されており、有効性が確立されている

短所

- ・X線の被曝
- ・痛みを伴うこともある
- ・乳腺が発達している乳腺密度の高い方(若年者に多い)ではX線の特性上、病変が見えないことが多い